江戸川区議会議員

田中寿一（じゅいち）

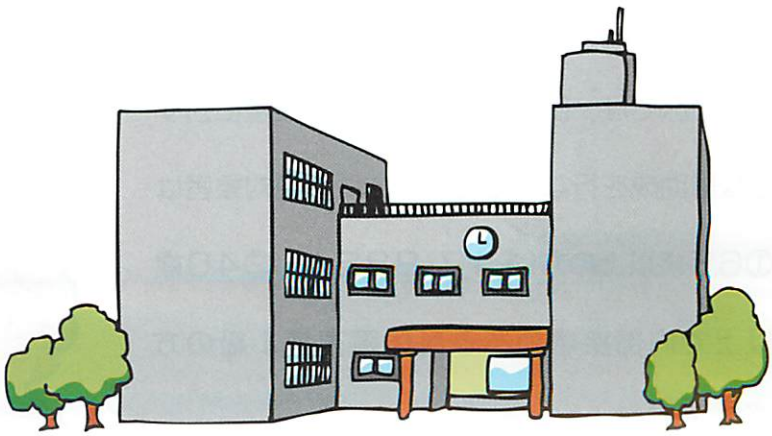
区議会レポート 2010 Vol.1

未来へ、まっすぐに。

発行・連絡先／田中寿一事務所
〒134-0091 東京都江戸川区船堀3-1-3
TEL：03-5679-0413 FAX：03-3689-1082

小中学校の改築事業が進んでいます

～「ひと」・「まち」を切り拓く、地域の核となる学校に ～



江戸川区では**今後20年にわたり、小中学校のおよそ3分の2にあたる71校が建て替えの時期を迎えます。総事業費約2,000億円を超える大事業です。**

これからの小中学校は、子どもたちの学びと育ちの場であることを最優先としながら、地域活動の拠点、更には災害時における避難・復旧活動の拠点として、これまで以上の機能充実が求められています。区民世論調査を見ましても、**今後推進して欲しい施策の第2位に災害対策（36.1%）、第6位に学校教育（16.5%）が挙げられています。**67万区民によって示された要請に着実に応え、未来を拓く人材育成のために、区を挙げた中心的事業として取り組んでゆかなければなりません。

私の母校である船堀小学校も現在、地域の方々を中心に改築懇談会が開催されており、平成22・23年度には基本設計・実施設計が策定されてゆく予定です。一昨年には開校120周年を迎え、3世代以上にわたって通学するご家庭もいる伝統校です。是非とも地域のみなさまの愛着ある思いとご意見をお聞かせ下さい。

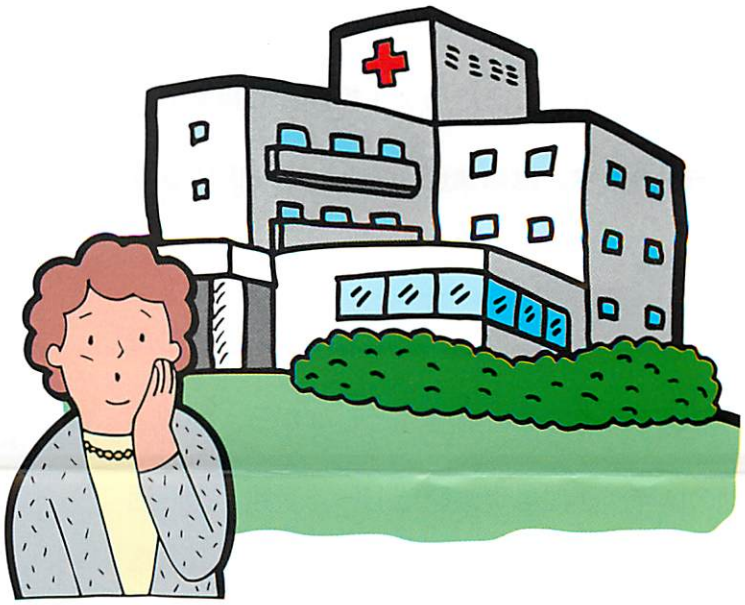
江戸川区の財政健全指標は、日本一！

～ 時代の変化に負けない基盤づくりをこれからも ～

総務省発表の全国自治体の財政健全化比率の指標によると、**全国１７９８自治体の中で、江戸川区の実質公債費比率（収入の規模に対する借金の返済割合を示す数値）はマイナス０．５％と最も低い数値**でありました。これは区民との「共育・協働」による区政運営を柱としながら、職員数の削減、民間活力の導入、ＩＴ化の推進など、行財政改革を力強く推し進めてきた成果です。しかしながら、出口の見えない経済不況による税収の悪化や担税力を担う人口の減少、扶助費の増大、学校の建て替え等、財政を圧迫する要因は今後とも多岐にわたっております。これからも将来の財政需要を見据えながら、一層の行財政改革に取り組んでゆかなければなりません。

肺炎球菌ワクチン接種助成を行っています

～ 日本人の死因の第４位が肺炎です ～



第４回定例会における補正予算の議決により、江戸川区では、肺炎球菌ワクチンの接種に対する公費助成を行なっております。接種対象者は**①６５歳以上の方（１１７，８８５人）②４０歳以上で内部疾患のある身体障害者１級の方（３，６００人）**です。

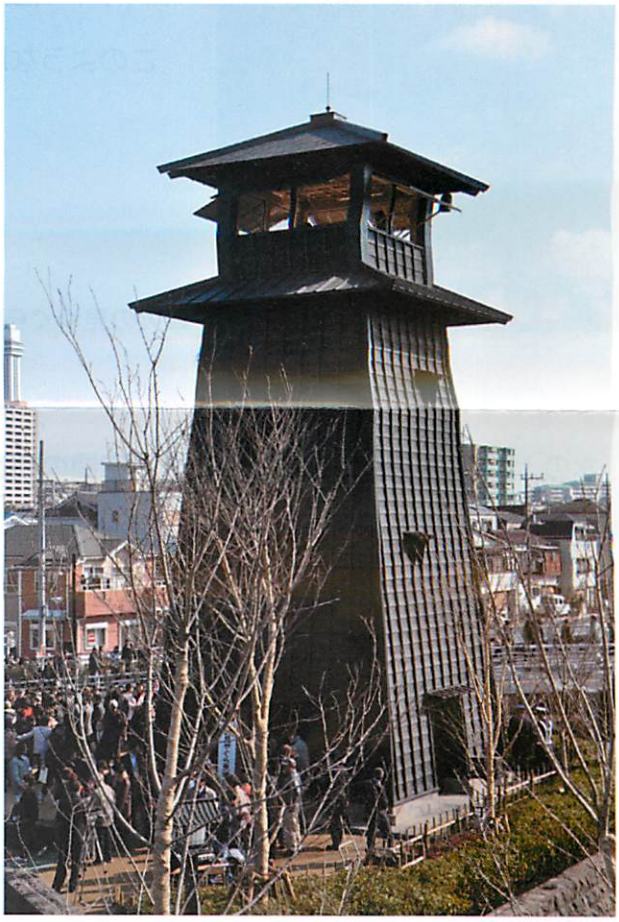
接種費用８，０００円のうち、４，０００円を区が補助します。肺炎は日本人の死因の第４位を占めており、肺炎による死亡率は高齢者になるほど急速に高くなる傾向にあります。インフルエンザに感染した場合、高齢者は肺炎を併発しやすく、インフルエンザシーズンにおける細菌性肺炎の５０％ほどが肺炎球菌によって引き起こされています。抗生物質の効きにくい肺炎球菌が増えてきている中、健康的な生活によって免疫力を高めると同時に、ワクチン接種により、未然に予防することが肝心です。１回の接種で、５年間免疫を持続することができるとされています。**助成期間は３月３１日まで**です。

いきいきとした生活・健康づくりをめざし、これからも施策の充実を図ってまいります。

新川西水門広場が完成しました。

～ ぬくもり＆賑わい＆うるおい溢れる街をめざして ～

江戸情緒、そして、木と人の温もりあふれる“ふるさと”づくり



平成１９年より取り組まれている新川千本桜計画。

この度「新川西水門広場」が完成し、１月３１日に初お披露目となりました。新川千本桜の会会員をはじめ、寄付者、地域の方々等、晴天の中、多くの皆様がお集まりになり、沿川は大きな賑わいに包まれました。当日は地域の方々の心意気により、模擬店も軒を連ね、賑わいに華を咲かせていただきました。徳川家康の開削の命により、その歩みを始めた新川。その歴史を今ここに掘り起こすことにより、**人と人とが結ばれる川・地域の活力と賑わいが生まれゆく川**として、当日もその一端を垣間見ることができたことは大きな悦びです。この新たな息吹を着実に育んでゆくこと、そして、**合計特殊出生率・年少人口数ともに２３区でトップの江戸川区として、この地で生まれ、育ってゆく子どもたちが、“ふるさと”を心から実感できる街づくり**のために、私は精力的に取り組んでまいります。

間伐材の利用による持続可能な森づくりへの配慮

■火の見やぐら内、物見室からの眺め

西水門広場に建てられた火の見やぐらは、高さ１５.５m、根開き５.４m。雄大な佇まいの中に、江戸情緒と木の温もりが感じられる、千本桜計画を象徴する建物です。

火の見やぐらや広場内のトイレ、人道橋、木柵等の木材には、**多摩産や荒川上流域産出の間伐材を利用。**これは、荒川・江戸川の最下流域に位置し、その約７割がゼロメートル地帯という

■火の見やぐら内部のようす

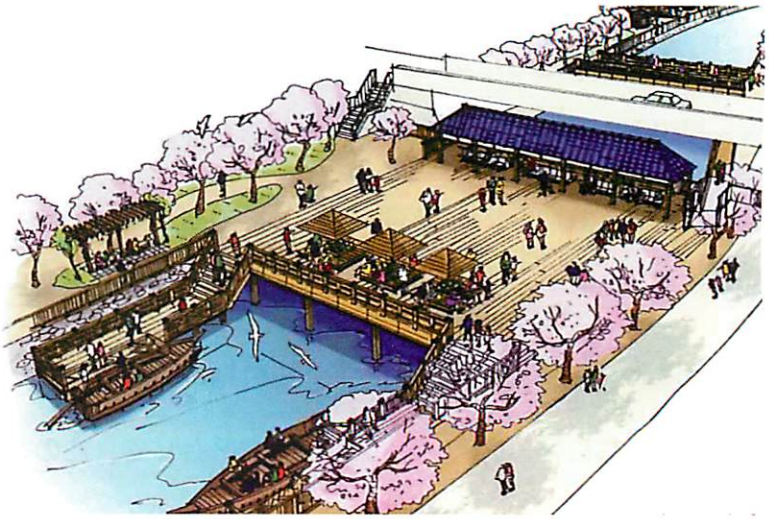
洪水の脅威を常に抱える江戸川区にとって、**上流域における森林の健全性を確保し、防災機能を高める取り組み**の一環となっています。

安心・安全を最優先としながら、都市にあって、水と緑と木の温もり、そして、心にゆとりを感じ取れる街をめざした計画です。

このような取り組みをこれからも積極的に進めてまいります。

水の上に浮かぶ新たなコミュニティ空間の創造

平成２２年度においては、新川橋以東の護岸耐震補強を中心に人道橋１橋、広場橋２橋を整備してゆく予定です。橋長約２０m、幅員約４０mを持つ広場橋の設置により、各種のイベントなど地域コミュニティと街の活力を創造するスペースが、川の上に生まれます。



■広場橋のイメージ

橋として交通の利便性向上はもとより、**川によって北と南に分けられているコミュニティを結び、人と人とがつながり合う架け橋、触れ合いの生まれる橋**を目指してまいります。

『私は、今回提案させていただく人道橋を、単に通行に便利なだけの橋ととらえず、新川という区民の大切な資源を人々が利用するために集まってくる、そのようなにぎわいを招く水の上に浮かぶコミュニティ空間創造の橋と位置づけることが重要であると考えます。それは、先ほど申し上げましたように、新川では日々いろいろな光景が展開されているからであります。人と人の触れ合いの場の提供であり、地域の輪を広げる架け橋になる、そのような思いを込めて提案させていただきました。』

これは、父である田中としひさが平成１６年第３回定例会で行った一般質問の抜粋です。

果せなかった思いを引き継ぎ、未来に向かってこの街に貢献してゆく。

初心を忘れることなく、これからも取り組んでまいります。